天理教 江南支部だより

発行先　江南支部
発行日　立教188年1月1日
発行責任者　福西　努
発行住所　甲賀町上野461番地9

1月号　NO294

新年あいさつ

支部長　福西　努

あけましておめでとうございます

昨年一年、支部管内の会長さんを始め、多くの方々のお力を頂いて大過なくつとめさせていただく事ができましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。

教祖百四十年祭に向かう三年千日もいよいよ仕上げの年を迎えました。三年千日について、諭達に引用されているおさしづの続きには

「どんな者でも、ひながた通りの道を通りた事なら、皆ひながた同様の理に運ぶ」とあります。通ったその先に大きく受け取って下さるとお示し下さっています。3年頑張れば、50年のひながた同様に受け取ってくださるというのです。

ご本部より三年千日の活動の一つとして、ようぼく一斉活動日が提唱され、当支部では『元の理』『おつとめ』『おさづけ』をテーマに3回開催し、お陰様で多くの方にご参加いただきました。あと2回、参加者の皆様に『元気』を持ち帰っていただけるようにとの思いで計画しております。

宝くじに当たったら急に親せきや友人が増えるように、何か持ってる人には人が集まってきます。それは物だけではありません。この人といると元気になれる、楽しい、明るい気持ちになれる。そんな人には自然と人が寄ってきます。私達ようぼくはそんな魅力のある人にならなければいけないと思います。これが「にをい」を出すことであり、心身共に人を元気にすることが「おたすけ」ではないでしょうか。

毎朝鏡を見て、笑顔を作り、まず自分が元気を出し、家族で笑い合いその笑顔を外に伝えていけるような魅力ある人になれるよう日々を通らせて頂きたいと思います。

近頃ではテレビでも「新年、明けましておめでとうございます」と言う方がおられますが、明けましてとは、夜が明ける、喪が明けるなど、前のものが終わることを意味します。新年が明けたら次の年になってしまいます。しかしそれぐらい1年はアッという間に過ぎてしまいます。

三年千日の最後の年である今年が、あっという間に過ぎてしまわぬうちに、一日一日を大切に、一歩ずつ確実に歩みをすすめさせて頂きたいと思いますので、支部管内の皆様にはなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

朝の信仰読本

悟る力を身につけよう

中山慶純著

ある男性が、こんな話をしてくれました。

私の父親は、教会長を務めていました。ところが、五十九歳で突然出直しました。当時の私は、「父は誰よりも一生懸命、神様の御用につとめていたのに、どうして出直さねばならなかったのだろう？」と納得がいかず、お道の教えに不信感を抱きました。そして「もう、天理教の信仰なんてやめてしまおう」とまで思ったのです。

そんなとき、父の母である祖母に、こう諭されました。

「おまえのお父さんは、九歳のとき、お医者さんもさじを投げるほどの大病を患ったんだよ。そのとき私は、親神様にお願いしたんだ。『いま、この子が出直したら、教会を継ぐ者がいなくなり、わが家は断絶してしまいます。たすけていただいた暁（あかつき）には、必ず息子にお道の御用をさせますから、どうぞ五十年、命を与えてください』と。それからちょうど五十年経ったきょう、お父さんは出直した。親神様は、こんな無理な願いを聞き入れて、約束をきちんと果たしてくださったのだから、私は一つも恨んでいないよ。むしろ、ありがたい思いでいっぱいで、お礼を申し上げたんだよ」

その話を初めて聞かされた私は、衝撃を受けました。「もし、父が九歳で出直していたら、私も生まれていなかった」。そう思うと、生かされていることへの感謝の思いが、ふつふつと湧いてきました。そして、父のような素晴らしい教会長をめざそうと決意したのです。。

「おふでさき」に、「このよふハりいでせめたるせかいなり」（一21）とあります。

この世は親神様のお働きによって治められている世界で、成ってくることはすべて、親神様のお計らいによるものです。

この男性は、父親の出直しという大節に信仰心がぐらつきました。けれども、おばあさんから話を聞いて、親神様のお働き、温かい親心を実感し、見事に節を乗り越え、素晴らしい決意をしたのです。

「信仰しているのに、なぜつらい目に遭うのか」と嘆く人には、このおばあさんのように、親神様の理の世界について、教え諭してくれる人が必要です。さらには、なぜそうなったのか。親神様の思召はどこにあるのかということを、寄り添いながら一緒に悩み、考えてもらえたら、その人の心は再び親神様のほうを向くはずです。

理の世界を実感するには、悟る力が大切です。おたすけ経験を積み重ねることにより、悟る力はついてきます。また、教友の信仰体験を聞かせていただくことも、その糧（かて）となるでしょう。悟る力をしっかりと身につけて、誠のようぼくを目指していただきたいと思います。

みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何とありがたいことか！

お道は果てしなくつづく希望の道の教えである

キリスト教（カトリック）では、死ぬとしばらく煉獄にいて罪を洗い清め、最後の日を待つ。そして天国に迎えられる者と地獄へ行く者とに選別される。

人間すべてが、天国へ行けるのではない。地獄へ堕ちる人もいる。そちらの方が多い。

仏教では、お釈迦様は死後の運命については一言も話されなかったという。その後、ヒンドゥー教の影響などをうけて、六道輪廻（天道・人道・畜生道・修羅道・餓鬼道・地獄道）の教えが入ってくる。人間はこの六つの世界をぐるぐる永久に廻らねばならない。輪廻することは、決して幸せなことでなく、苦しいことで、この永久の鎖の輪から抜け出せれば、すなわち解脱すれば救われるという。

お道では、人生は今世で終わるのでなく、前世から来生へと次々と生まれ替わっていく。それは決して輪廻のように同じ運命の、永劫の繰り返しではない。この世に生まれ替わってくるが、今世での努力しだいでは、来世ではよりよい状態で生まれ替わっていく。前世、現世、来世と果てしなくこの世に生まれ替わり、だんだんと成人した人間となり、それにともなって世界もだんだんよりよいものになっていく。そして人々もより幸せな人生を送ることができる。

末代につづく、より幸せな人生と世界創造という、希望にみちた人間の成長と社会の発展の生き方が教えられたのである。

あとがき

「天理教教典」の第十章に、真正の平和とか真の平和など、平和という言葉が六回出てくる。そして、結論として、「道の子は、存命のまま導かれる教祖に抱かれ、ひたすら、世界人類の平和と幸福を祈念しつつ、たすけの道に弥進む。

このみちハどふゆう事にをもうかな
このよをさめるしんぢつのみち
（六 4）」

という言葉で締めくくられている。

このように、世界の平和を強調している教典をもっている教えは世界のどこにもない。

現在、世界が直面している危機を救うのは、この平和の教えとも言うべき本教を世界中に広めるより他にない。

私たちようぼくは、この世治める真実の道を一日も早く全世界に広めていくという重大な使命を担っている。

この拙著が、親神様・教祖の御教えだけが世界の人々に真正の平和と幸せをもたらす教えであるという、確固たる信念と誇りと夢をもって、世界だすけに懸命に努力していただくのに少しでもお役に立てば、この上のない幸せです。

支部婦人会主催　みちのだい育み塾開催案内

日時：1月25日（土曜日）午前11時より
会場：蔚山分教会
内容：秋季大祭の真柱様のお話を受けて
　　昼食（親睦会）
対象：育み塾対象者及び女子青年
申込み締切り：1月20日